

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

| 学校名        | 埼玉県立狭山工業高等学校                                       | Cグループ  |
|------------|--|--|
| 項目         | 調査の観点  | 取組状況に関する所見   |
| 目指す学校像     | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。                    | 地域からの要請や進路の実態を踏まえ、「地域産業を担う技術者を育成する」という言葉に反映させるなど、昨年度見直しが図られた。学校の置かれた状況や課題を的確に把握した上で、特色を踏まえた適切な学校像となっており優れている。  |
| 重点目標       | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 保護者・地域の期待、生徒の学力や進路の実態を勘案し、重点目標が設定されている。目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき課題が明確に示されており、日々の教育活動の指針となっている。  |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。                   | 評価運営委員会と企画委員会を統合するとともに新たに評価運営係を設定するなど、学校自己評価システムに基づく組織化が進められている。本システムが十分機能するように、組織間の連携を更に強化し、教職員全体や学校関係者が参画するように工夫していただきたい。                                      |
|            | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。                           | 組織的・計画的な取組が増えており、生徒指導や技能の向上などにおいて成果が見られ、第一志望の進路決定率の高さにつながっている。方策は具体的なものへと整理されたが、評価指標については、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定することが望まれる。 |
|            | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。        | 校長は、フットワーク良くコミュニケーションを図り、教職員一人一人の能力を生かして組織力を高めようとしている。校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。   |
|            | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。        | アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。課題や次年度への改善策を明らかにするため、仮説を検証するアンケート項目を設定するなどの工夫を進め、分析結果に対応する担当を明確にして、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。                         |
| 特記事項       |  |  |